

29年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
入荷動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	12.5	△ 12.5
	カラマツ	25.0	10.0	10.0
	トドマツ	16.7	△ 16.7	16.7
消費動向	スギ	8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	16.7	10.0	20.0
	トドマツ	16.7	16.7	16.7
在庫動向	スギ	△ 16.7	0.0	10.0
	ヒノキ	△ 37.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 8.3	△ 10.0	△ 10.0
	トドマツ	16.7	△ 33.3	0.0

・スギ合板原木の入荷は3カ月連続で横ばい。ヒノキは3月は減少、4月は増加、5月は減少。カラマツは3カ月連続でやや増加。トドマツは3月は増加、4月減少、5月は増加。

・スギ合板原木の消費は3月のやや増加から4月、5月は横ばいへ。ヒノキは3月は増加、4月、5月はやや減少、カラマツ、トドマツは3カ月連続の増加。

・スギ、ヒノキ合板原木の在庫は3月は減少、4月、5月は横ばいないしやや増加。カラマツは3カ月連続でやや減少、トドマツは3月は増加、4月は減少、5月は横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/3月	4月	5月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	10.0	0.0	12.5
米マツ	50.0	50.0	33.3
北洋カラマツ	50.0	66.7	25.0
その他	-	-	-

・スギ、ヒノキとも3カ月連続で横ばい。カラマツは3月は増加、4月は横ばい、5月は増加。

・米マツ、北洋カラマツは強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・新工場の再稼働により、入荷量・消費量とも増加する。消費動向を見ながら、決算期を控えているので在庫は少し減らす予定。

・相場は下がり気味。価格を維持する間は、入荷は増えてくると思われる。5月は入荷日が減るので入荷が減少する。消費は稼働日数で決まる。3月がピークで4月、5月と落ちる。スギ、ヒノキとも入荷が増えるため、在庫は増える。

・雪の影響はなくなり、現在は安定入荷。生産に合わせて消費。在庫はほぼ横ばい。

・スギ、ヒノキ材の入荷減少が継続してる。3月後半に期待。入荷動向を見据え消費。在庫はスギ、ヒノキで減少。

・1月以降はカラマツ入荷を減らす。カラマツを主に消費増。相変わらずカラマツ在庫が多い。

・スギの入荷は順調だが、カラマツは厳しいまま。3月は稼働日多く消費増。

(原木価格)

・国産材は横ばい、外材は春先まで総じて上昇気配と予想。

・合板の価格が変動しない限り、原木価格は維持して行きたい所。

・当月は横ばい。カラマツは強含んで来ている

・4月からの価格は3月末に決定する。安定供給なくして単価上昇はなし。

・ロシア材が強気で先が見えず。

・すべてにおいて上昇傾向、特にカラマツ。

29年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
生産動向	構造用(9mm)	25.0	10.0	10.0
	〃 (12mm)	28.6	16.7	8.3
	〃 (15mm)	△ 7.1	8.3	△ 8.3
	〃 (24mm)	21.4	25.0	0.0
	〃 (28mm)	21.4	25.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (12mm)	28.6	8.3	8.3
	〃 (15mm)	0.0	8.3	0.0
	〃 (24mm)	28.6	16.7	0.0
	〃 (28mm)	28.6	16.7	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	△ 8.3	△ 8.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 8.3	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (28mm)	△ 28.6	△ 16.7	△ 16.7

・構造用合板の生産及び出荷は一部品目を除き、3月、4月は増加するものの、5月は横ばい。

・構造用合板の在庫は一部横ばいがあるものの、総じて3カ月連続で減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
構造用(9mm)		16.7	0.0	0.0
〃 (12mm)		14.3	0.0	0.0
〃 (15mm)		14.3	0.0	0.0
〃 (24mm)		14.3	0.0	0.0
〃 (28mm)		14.3	0.0	0.0

・構造用合板の出荷価格は3月の強含みから、4月、5月は保合で推移。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

・工場全体ではフル稼働、生産するとすぐに出荷する現状が続く。特に12mmの在庫が少なくなると予想。

・フル生産の状態が続く。発注状況に合わせての生産内容となる。5月は設備メンテにより生産減。引き続き12mmネダノンの引き合い強い。年度末にかけてトラック便の配送に左右される可能性あり。在庫は低水準のままで増える状況にないが、一服感が出てくると増える可能性あり。

・入荷はスギは順調に、カラマツは厳しいまま。消費は3月・稼働日多く消化増・

・生産は、9mmは先月減った分を今月増、12mmは客先の需要により増、15mmは12mmを増やした分15mmは減、24、28mmは横ばい。3月も在庫は低水準で横ばい。

・生産計画に添い稼働、出荷は24、28mmの増加が目立つ。在庫は全品種減少。

・少量生産に付き変化なし。

・まだ引き合い多く生産増へ、3月納期遅れ分で出荷増へ、在庫は若干減少へ。

(構造用合板の価格)

・価格は現状のままと予想。

・円安による原木価格、接着剤(フェノール価格)の上昇によりコストアップの要因が出始める。様子見の状態。

・原材料の上昇にともない今後は上昇も考えられるが。

・全品目上昇。

・変わらず。

・ほぼ横ばい。